

計器飛行を実施！

ターミナルビルも新設

これでいいのか!? 騒音増大、安全性低下、機能拡大!

昨年末に、東京都と地元3市が合意してしまった、調布飛行場への計器飛行の導入であるが、これが、6月18日から実施された。

当会としては、計器飛行は、「就航率の向上」という形で直接的に、そして、「ダイヤの増加」や「新規路線」を誘発するという形で間接的に、飛行回数増加を促進し、騒音を増加させること、そして、「悪天候での飛行」という形で、安全性を低下させること、さらには、「夜間飛行」その他の形で、さらなる飛行場機能の拡大につながる道を開くことになりかねないことなどを理由に、計器飛行の導入には反対してきたところである。

飛行場周辺住民は、①毎日の騒音、②事故への恐怖、③飛行場への監視活動、④生活環境のための政治活動、⑤都や市からの裏切りなどにより、肉体的、精神的、知的に、大変な負担を強いられている。今回の暴挙により、その負担は、相当に増加したと言わざるを得ない。

約束は守れ!!

そもそも、調布飛行場の都営コミュニティ空港化の話が出てきたのは、今から24年前のことである。

当時の調布の吉尾市長は、即時に拒否すべきところを、「中身が分からないから、具体的内容を示せと突っぱねた」などという姿勢を示した。「突っぱねた」などと、威勢の良い

ことを言っていたが、「具体的内容を示せ」などと言ったら、回答が返ってきてしまうではないか。

そうして返ってきてしまった回答が、1990年5月の、最初の調布飛行場整備方針であった。

但し、この中で、東京都がトップ項目で示した方針こそ、「昼間有視界飛行」、即ち、「計器飛行はやらない」ということであった。つまり、この方針は、我々が要求する以前に、東京都が自ら、自発的に示したものであったのである。これは、後に、覚書のトップ項目となっていった。

こういった歴史的な重みをもった約束を、2003年の後半から2004年の初めにかけて、東京都港湾局離島港湾部の調布飛行場担当の松本参事は、都議会に於いてデタラメな答弁を繰り返した挙句、都の方針をひっくり返してしまった。松本参事を裏で操る、国土交通省航空局から出向していた池田課長や、松本参事の答弁の中身も見抜けず、不勉強な都議会議員、或いは、松本参事とグルになった、明らかに悪質な都議会議員も含めて、忘れがたい。

そして、それから9年を経て、その間、議論その他があったとは言え、そういう東京都のデタラメな方針変更を認めてしまった調布市も、情けない限りである。

予定より遅れた実施

ところで、この計器飛行であるが、

東京都は、本来は、4月2日の、新ターミナルビルの開設に合わせて実施する予定であった。しかし、航空管制を巡って、横田との調整で手間取った関係で、結局、梅雨入りにも間に合わなくなってしまった。

感謝をされても……

神津島の石野田村長は、「広報こうづ」で、「騒音や事故の危険等、多大な迷惑をかけている中で、周辺住民や行政・議会が計器飛行化に反対するのは当然といえば当然のことです。それは、計器飛行の導入によって飛行回数が増え、騒音被害や事故の危険度も増すことになるからです。……島民の皆様と共に重ねて関係三市並びに東京都にお礼申し上げます」などと記している。

他の島々の村長も、濃淡こそあれ、同様の姿勢を見せてはいる。しかし、そもそも、形式的には、離島の村長からの陳情があった結果、調布飛行場への計器飛行の導入へとつながったわけであり、釈然としないものがある。

調布飛行場の騒音被害を本当に受けているのは、滑走路延長線上の、調布市及び小金井市の市民である。離島の村長からの陳情に、鷹揚な態度を示し、感謝を受けているのは、被害者でも何でもない、調布、府中、三鷹の市長や議員ではないか。

東京の離島路線は、羽田に集約していくというのが、東京都の第2次

長期計画までの方針であり、本来、この方向で進むべきであった。

離島は、厳しい環境下にあり、そういう意味では、我々も、そういう立場に配慮する姿勢にあるが、しかし、離島側も、住宅密集地にある、調布飛行場周辺住民に、配慮を示すべきではなかったのか。

具体的に言えば、離島側は、離島航空路を、本来そう予定されていたように、計器飛行も含めて、羽田に求めるとというのが、筋だったのであ

る。三宅島航空路線が、羽田から調布に移管されるが、これも、そういう意味では、逆行も甚だしいと言わざるを得ない。

新ターミナルビル開設

4月2日より、調布飛行場の新ターミナルビルの供用が開始された。ターミナルビルの設置自体は、平成8年の調布飛行場整備計画の時点で決まっていた。当会の分析では、飛行場拡大計画を画策する一部勢

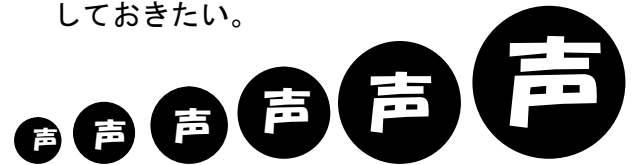
力が、現在の飛行場の規模に合わせた建設に反対したのが、大幅に遅れる原因である。

出発ロビーと搭乗待合室の座席数が、それぞれ60前後と多めのため、警備員を除いて見ると、ガラガラ感が強い。

一方、平成8年の図面では明示されていた、備蓄倉庫については、結局、何の進展も見られなかった。地元市の対応が問われる事態と、指摘しておきたい。

計器飛行!?

市民の



やっぱり市民軽視

6月下旬、集会所から出たら雨がしとしと降っていた。その時上空を飛行機が飛んでいた。私は「こんな天候で飛ぶ筈がないのに」と自分の目を疑った。早速帰宅して調布飛行場の空港事務所に電話をしたら、6月18日から計器飛行で飛べるようになりました。市報で皆さんにお知らせしています」との事。そういえば平成24年7月に都から市に申し入れがあり、就航率向上のために一部計器飛行導入の希望があり、いろいろな手続きを経て決定したことを思い出した。

確かに手続きはとったかも知れない。しかし空港を開設する時に都と市の間でかわされた協定が次々と都の都合で変えられ、利益優先第一で進められるのには異議がある。

調布飛行場は人口密集地のド真ん中にあり、飛行場にむかないと最初から言われてきた。しかし島の人達の緊急時対策ということで、有視界飛行等、27項目の協定のもとに開設された。それが約10年の間にいと簡単に協定は破られてきた。開設さえすればあとは合法的そうな方法で破ってもいいと考えているのだろうか。調布市民を軽視しているようで、許せない気持ちだ。(S・N)

しっかり監視しなければ

6月20日付けの市報の4頁にたった9行「調布飛行場からの離島航空路に計器飛行方式を導入します」の記事が載りました。市民の何人が気付いたでしょうか。それも「6月から」市報に出た時にはすでに始まっているのです。騒音と危険が倍増するのです。今度は「新機種導入」が関係者に知らされています。市民の反対が少ないので、1つ決まってしまうと良い気になって次々新手を持ち出してきました。日本政府のやり口と同じです。私達も一生懸命お知らせします。飛行場問題は調布市民全てに関することです。市の姿勢にも問題があります。ぜひ飛行場問題に関心をお持ち下さい。(鵜澤希伊子)

機能拡大するな!

6月18日から離島便に計器飛行が導入された。

調布飛行場は周囲の状況を考えて移転させるべきで、本来あってはならない場所にある。しかし、「移転先がない」、「離島のため」ということで、27項目の条件つきで、都営コンピューター空港になってしまった。しかし、その条件も少しずつくずされていく。

今回も、天気が悪いと飛べないので、就航率が悪いということで、計器飛行が導入されてしまった。この件に関しては、昨年住民説明会があり、住民の立場からいろいろ反対意見が出たが、結局、形式上やったという感じで、東京都の思いどおりに事が進んでいく。私は、計器飛行は、先々夜間飛行につながっていくことを一番心配する。4月から空港ビルが開かれた。来年度からは三宅島便もふえる。もっと活用しようとする人もいる。東京都もその方向だと思ふ。

調布飛行場をもっと利用するなんてとんでもない。これ以上拡大することは考えないで航路下の住民のことを考えてほしい。本来あってはならない飛行場なのだから。(H・Y)

疑問や苦情の電話は……

騒音や危険飛行など、調布飛行場の在り方に、ご意見をお持ちの方や、何か問題になることを目撃された方は、東京都の調布飛行場管理事務所にお問い合わせください。ここが、苦情の窓口です。

電話番号は、0422-34-4840。